



みんなで地球にやさしい物流を

Green Partnership

令和7年度 グリーン物流パートナーシップ会議
物流パートナーシップ優良事業者表彰

経済産業大臣表彰
江崎グリコ株式会社

すこやかな毎日、
ゆたかな人生



メーカーと卸売業のコラボレーションと 段積みマテハンを活用したチルド配送効率化

江崎グリコ株式会社
ロジスティクス部
坂 和夫
2025.12.23

目次

1. 参加企業ご紹介
2. チルド日配物流の特徴
3. 背景・取組み概要
4. 取組み内容説明
5. 3つの新発想
6. 成果まとめ



1. 参加企業ご紹介

株式会社サンライズジャパンホールディングス

株式会社サンライズグランドフーズ

エージーエス株式会社

岐阜プラスチック工業株式会社

鴻池運輸株式会社

江崎グリコ株式会社



2. チルド日配物流の特徴

1. 賞味期限が短い、発注・納品リードタイムが短い
2. 附帯作業、指定時間納品の制約
3. 多頻度・少量配送

積載率が低い状態 ➡ 結果 車両台数が多くなる。



3. 背景・取組み概要



物流生産性向上 サステナブル物流



環境負荷低減

社会との関係

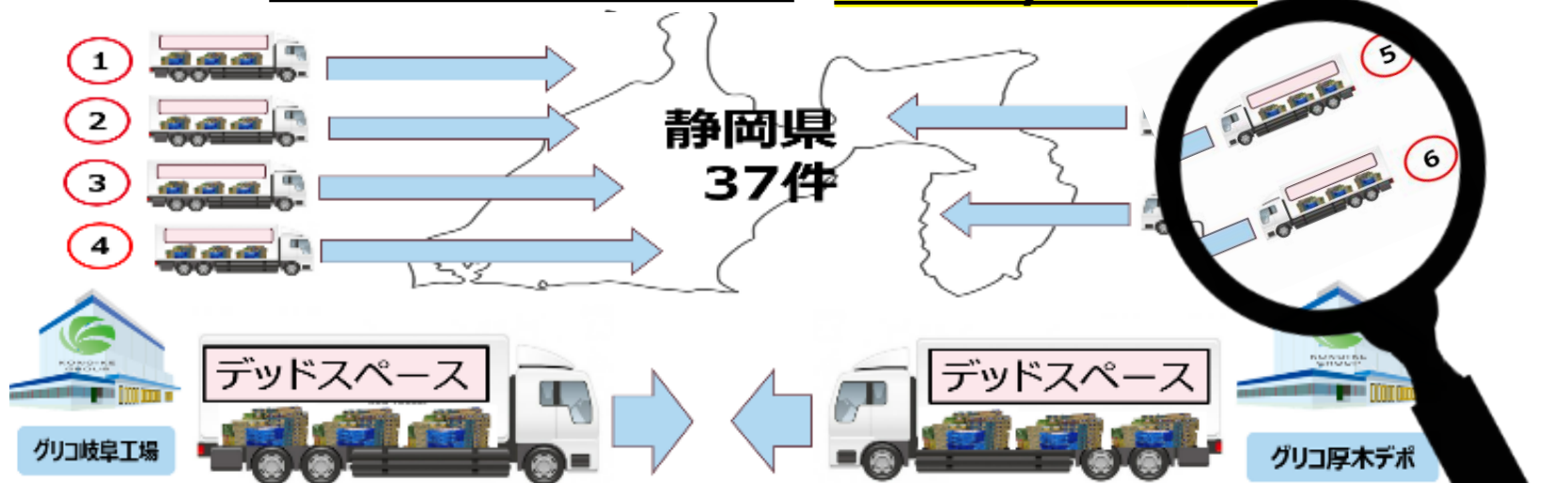


事業者横断的に考え方や仕組みを変える必要がある

1. メーカーと卸売業のコラボレーション
2. 段積みによるデッドスペース解消
3. パケット型輸送の開発
(得意先単位)

4. 取組み内容説明

(Before) **直送トラック 1日6台 年間2,190台**



(After) **直送トラック 1日2台 年間 730台**



Before

従来型の物流フロー

Glico

直送トラック 1日6台

年間2,190台

静岡県
37件

デッドスペース

デッドスペース

グリコ岐阜工場

グリコ厚木デポ

刷新した物流フロー

After

直送トラック 1日2台

年間 730台

(株) サンライズグランドフーズ



1

大型チェーン直送



2



卸売業
【納品】

卸売業
【共配】

静岡県
37件

(得意先単位)
パケット型



グリコ岐阜工場



5. 3つの新発想

新発想

①メーカーと卸売業のコラボレーション



✓ 商流・物流共にwin-winの関係性を構築

✓ メーカーと卸売業で双方の車両最適化



(株) サンライズグランドフーズ
総合食品事業



工夫した点

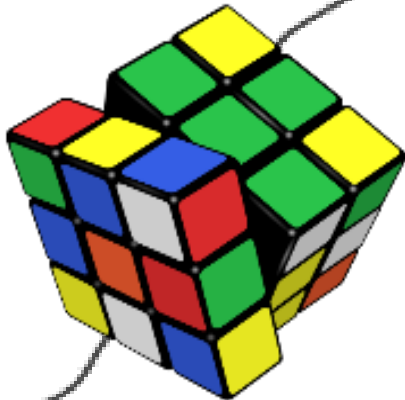
Glico

メーカー
江崎グリコ

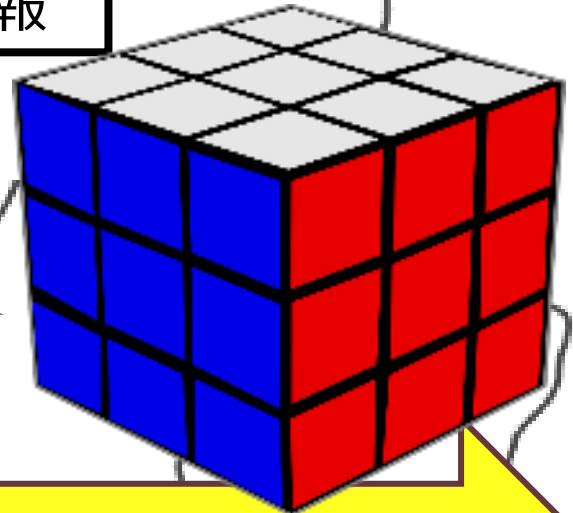
卸売業
サンライズグランドフーズ



- | | |
|--------|---------|
| ☑ 受注時刻 | ☑ 配送ルート |
| ☑ 納品時刻 | ☑ 帳票関係 |
| ☑ 附帯作業 | ☑ 特売情報 |



交渉



複数のお得意先に交渉して調整

新発想



②段積みによる デッドスペース解消

Glico



GIFU PLASTIC INDUSTRY Co., Ltd.
岐阜プラスチック工業株式会社

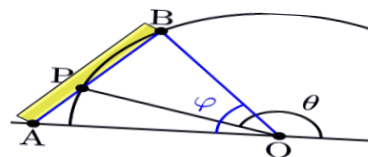
製品名: リスモーダルカーゴライト





工夫した点

Glico



- ✓ 最適なカーゴの寸法
- ✓ 紛失防止の表示
- ✓ 積込時の天井接触防止
- ✓ 輸送の円滑化

物流品質
「安全・安心」

輸入サイズ

3段積み専用	2段積み専用
江崎グリコ（株）所有 不正使用禁止 要返却	江崎グリコ（株）所有 不正使用禁止 要返却
	

紛失防止

江崎グリコ（株）所有
不正使用禁止 要返却



輸送テスト 商品/数量/評価基準

事業部	商品	数量
乳業	Pキャンカフェオーレ	上段: 120本 下段: 120本
乳業	Bigプッチンプリン	上段: 108個 下段: 108個



新発想

(得意先単位)
③ パケット型 輸送の開発



- ✓ 2種類のカーゴ（大・小）
- ✓ パケット型（得意先単位）
- ✓ トレーサビリティ管理



グリコ岐阜工場

出荷
指図書



(得意先単位)
パケット型



サンライズグラントフーズ



(到着後)
ピッキング不要

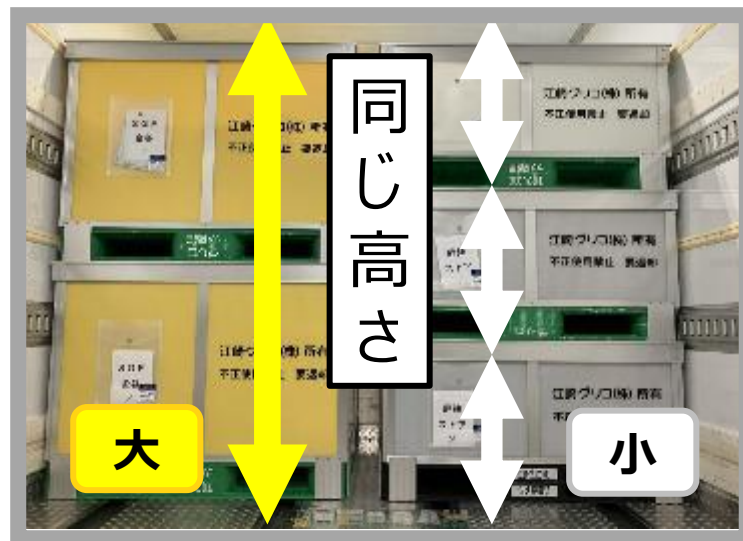




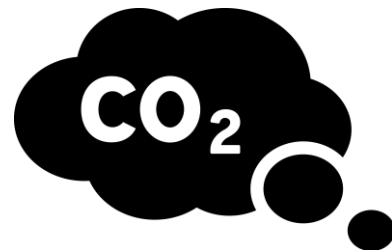
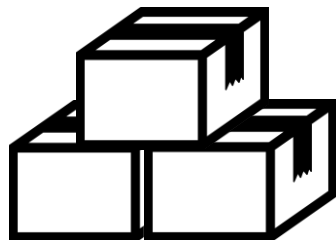
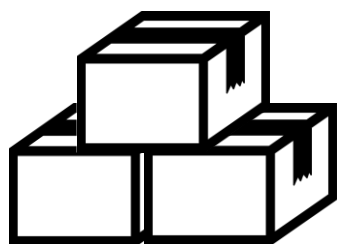
工夫した点

Glico

- ✓ カーゴの色（大・小）
- ✓ サイズ（得意先1件分）
- ✓ 伝票入れ



6. 成果 まとめ



積載率

積載率

年間利用

CO2排出

直送トラック

共同配送

車両台数

削減量

44%→54%

53%→70%

2,190台→730台

▲284t-CO2

(+10%)

(+17%)

▲1,460台

(▲32%)

※車格変更を伴う比較

(▲66%)

この取り組みをロールモデルとして、
全国の他エリア・物流事業者に広めていく



ご清聴ありがとうございました





みんなで地球にやさしい物流を

Green Partnership

令和7年度 グリーン物流パートナーシップ会議
物流パートナーシップ優良事業者表彰

物流DX・標準化表彰
株式会社セブン-イレブン・ジャパン



グリーン物流パートナーシップ優良事業 セブン-イレブン・ジャパンの取り組み

2025年12月23日（火）

執行役員QC・物流管理本部長
山口 繁

店舗の状況と物流効率化

◆店舗数と売り場面積



21,809 店



平均売り場面積

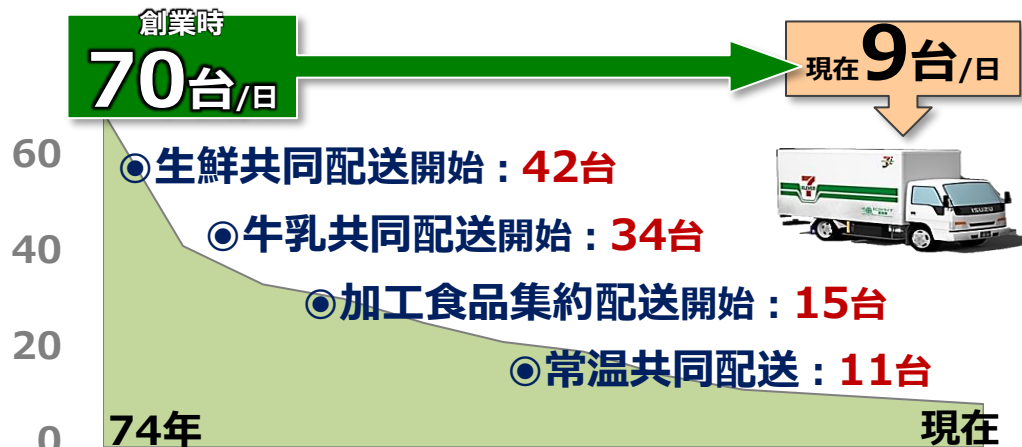
約 **142.7** m²

アイテム数

約 **3,000** アイテム

**CVS店舗は狭く小さい
➡物流の効率化は不可欠**

◆物流の効率化（1日あたりの納品台数）



今後更なるドライバー不足、燃料費高騰
などの環境変化が懸念

積載率
向上

荷待時間
削減

納品便
集約

拘束時間
削減

**効率化と環境負荷軽減に向け
更に取組みを強化していく**


物流効率化の取り組み

◆夜間納品便の集約（日配品）

25年3月現在：9,500店舗実施中

時間	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5
変更前										

積載率約34%

変更後	<div>積載率の低い2つの便を集約</div>									
-----	--------------------------	--	--	--	--	--	---	--	--	--

積載率約62%

配送1センターあたりの実績（18センター平均）

配送コース
43→23コース
（▲20コース）

夜間配送員
拘束時間
（▲28h/月）

◆曜日別納品時間変更（常温商品）

25年1月現在：11,300店舗実施中

月	火	水	木	金	土	日
---	---	---	---	---	---	---



新規商品発売で
納品物量増
積載率約90%



6店舗の場合積載率
70%以下

8店舗積載とし
積載率約90%

物量波動に合わせた配送コースの
設定を行い車両台数を削減

便集約や納品時間を曜日ごとに変えることで積載率改善

環境負荷軽減の取り組み



次世代環境車両



EV、FCトラックの導入

バイオ燃料



B5、B100燃料の活用

太陽光・循環システム



車載太陽光、蓄電池

モーダルシフト



鉄道、モノレール配送

2030年に向けて環境取り組みの更なる強化が必要

お取引先様との連携

◆各社との連携

JLC 日本ロジスティクス協同組合
2020年5月設立

センター運営会社27社が加盟



**資材等の購入やノウハウの共有、
また表彰制度等を通じて
各運営会社様と連携した活動を実施**

◆ J L C加盟企業（27社）

※五十音順

アサヒロジスティクス(株)	(株)ナシオ
(株)アルプスウェイ	日本酒類販売(株)
(株)天野回漕店	(株)H I - L I N E
伊藤忠食品(株)	(株)フリジポート
(株)エス・バイ・デー	アサヒフレッシュロジ(株)
(株)エスアイシステム	(株)ベストランス
(株)籠島	丸伊運輸(株)
(株)紀文フレッシュシステム	三井物産流通グループ(株)
ケーシーエス(株)	(株)武蔵野ロジスティクス
佐藤(株)	(株)ヤマカ山加運輸
(株)高山	ヤマエ久野(株)
直販配送(株)	(株)ロジスティクス・ネットワーク
(株)デイリートランスポート	Y L O (株)
(株)析雪	

**加盟店さまとサプライチェーンを支える皆様とともに
持続可能な物流の構築を目指してまいります**

明日の笑顔を 共に創る





令和7年度 グリーン物流パートナーシップ会議
物流パートナーシップ優良事業者表彰

物流構造改革表彰
ロート製薬株式会社

リレー式コネクト共同配送 (複数企業 × 多拠点 × 中継・連携)の新標準



2025年12月23日

ロート製薬株式会社

流通マネジメント部 中央物流センター 山中健大

共同発表者：

東陽倉庫株式会社

東京カスタマーサービス部 松井勝雅

参画企業紹介

ロート製薬株式会社



事業内容：
アイケア、スキンケア、内服関
連商品の製造・販売



株式会社ミルボン



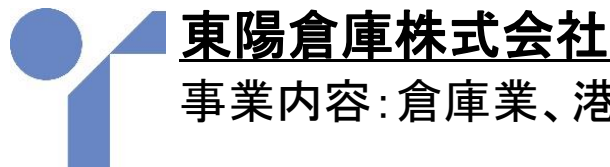
事業内容：
美容室向けヘアケア・化粧品
の製造・販売



Haleonジャパン株式会社



事業内容：
医薬品、医薬部外品、化粧
品、医療機器などの研究開
発、輸入、製造、販売

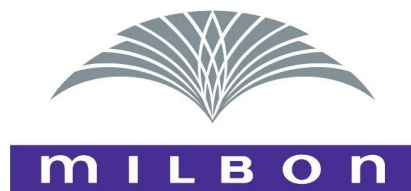


東陽倉庫株式会社

事業内容：倉庫業、港湾・海上・陸上・航空貨物運送業、通関業、不動産業

※上記参画企業その他、製造委託会社、委託物流会社、実運送会社等多岐にわたる関連企業の協力のもと、本施策が成り立っております

私達、荷主企業と物流事業者様は
“共に価値を届けるパートナー”。



HAL=ON



東陽倉庫

私たちの挑戦は、
物流事業者の皆さまとの協働によって初めて実現します。

そして、お客様へ製品が届くのも、
物流を担う皆さまの支えがあってこそです。

背景

物流業界

【人・労働環境】



- ・人手不足／高齢化の進行
- ・長時間労働／低賃金

【非効率な構造】



- ・デジタル化、自動化への対応遅れ
- ・商慣習・構造的課題(多重下請け、待機、積載・空車率等)

【コスト・運営】



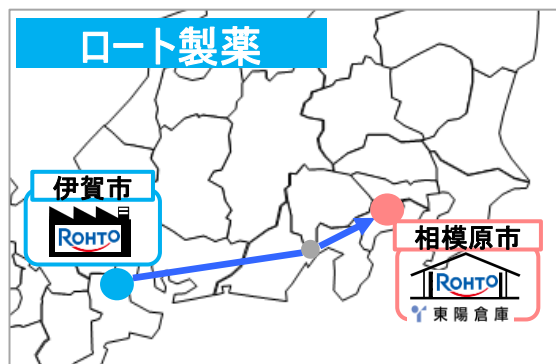
- ・コスト上昇(燃料費・人件費・設備・維持費等)
- ・取引慣行の硬直化

【社会・環境】



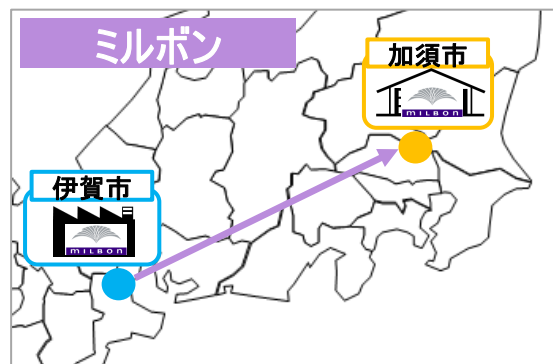
- ・脱炭素／CO2排出量削減対応
- ・災害リスク対応

個社物流課題（在庫移動分野一部）



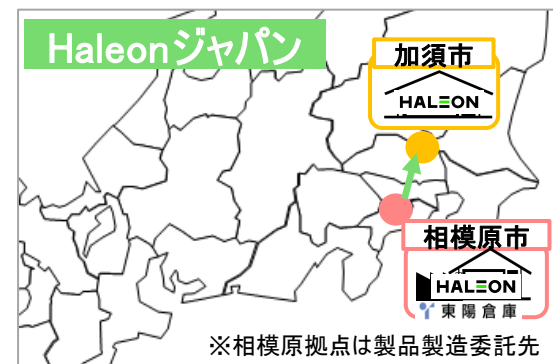
課題

製品規格サイズによっては平積みで輸送する必要もでてくるため、輸送時の**余剰空間が発生し積載率**が課題



課題

パレットサイズの特性もあり**単独での積載効率化**の限界や**過剰供給リスク**などが課題



課題

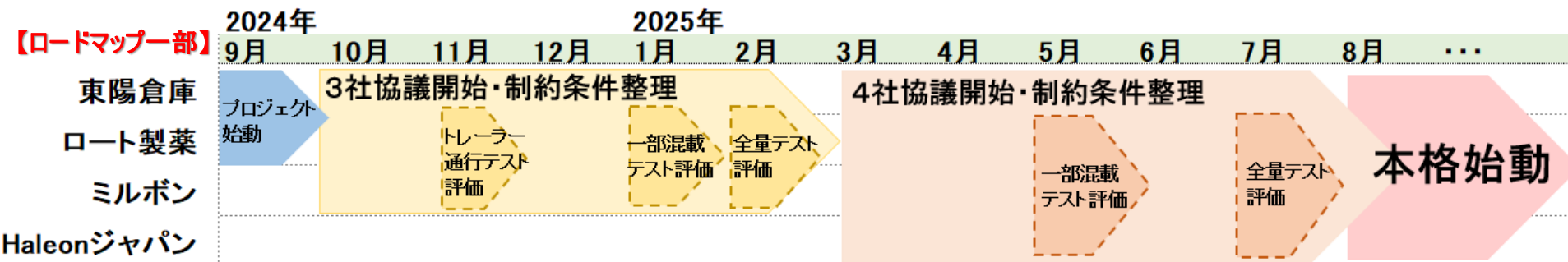
製品規格サイズによっては平積みで輸送する必要もでてくるため、輸送時の**余剰空間が発生し積載率**が課題

東陽倉庫：荷主それぞれのオーダーにより都度、輸配送手配を実施。年々、原価高騰やドライバー不足（特に長距離）が顕在化しており**輸送効率を高めた運用**が課題

事業概要 ～ポイントと対応～

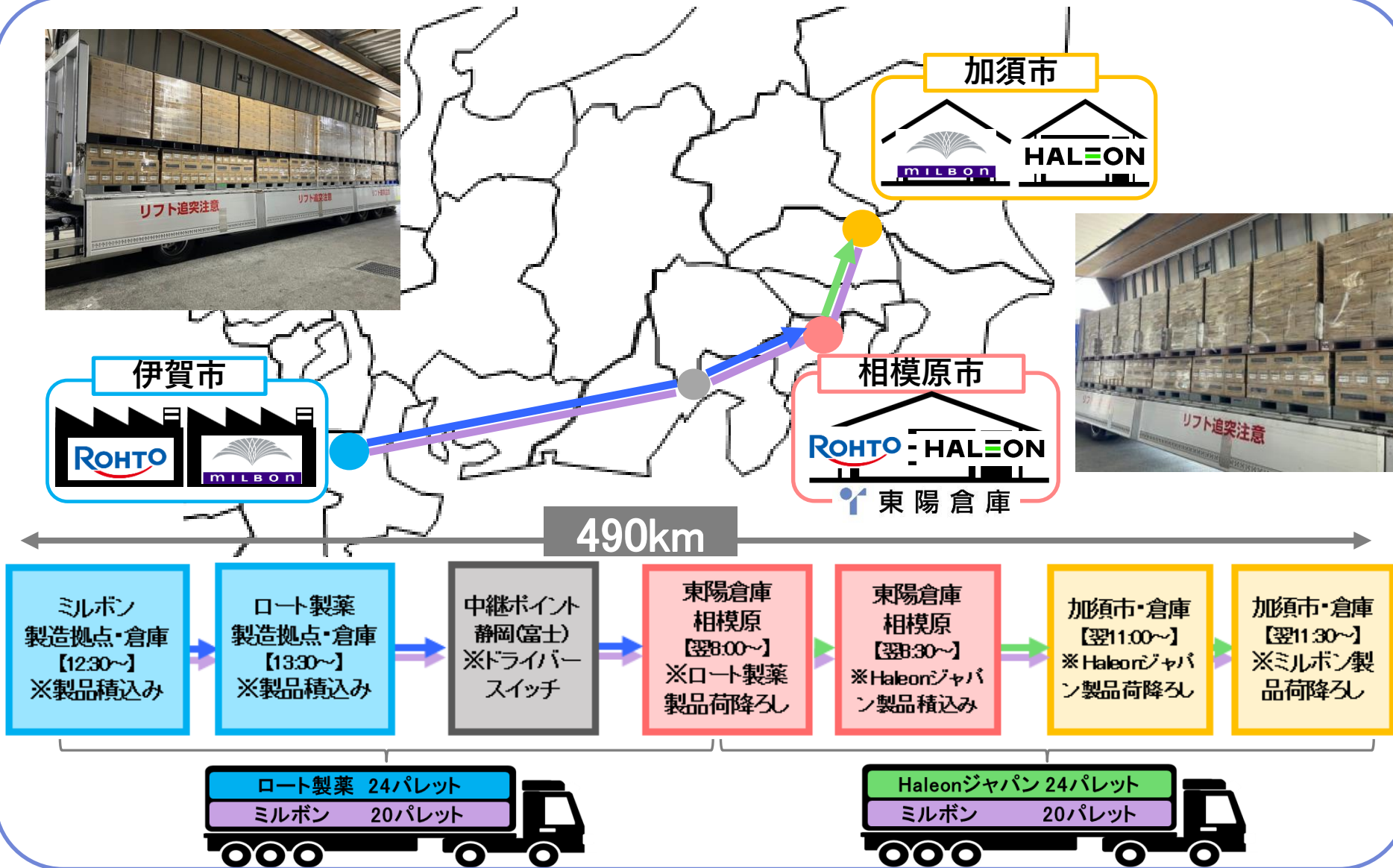
輸送効率最大化による環境負荷軽減、ドライバーの労働環境改善および人手不足・長距離輸送対応における持続可能性の追求

ポイント	対応
荷主企業／ 物流企業連携	同一工業地帯にある異業種／同業種企業との物流協調領域の模索
	物流効率化を最大化するため、業種・企業数は限定せず幅広く可能性を追求
	荷主企業と物流企業のもつ情報ネットワークをオープン化し全体最適プランを立案
積載効率最大化	輸送効率最大化(積載率)における車種選定 ※今回は、ロングトレーラー車を起用
持続可能性	長距離輸送において中継輸送形態を起用し持続可能性を追求
制約条件整理	パレットサイズ、輸送量、製品安全の問題など、各社の様々な制約条件をクリアするため、共同輸送に適した製品選定、積載技術検証、品質テストを段階的に何度も実施
合意形成	運行フロー、品質テスト評価およびリスクや料金を含め、全社での合意形成を実施



事業概要

～リレー式コネクト共同配送(複数企業×多拠点×中継・連携)の新標準～



効果

リレー式コネクト共同配送(複数企業×多拠点×中継・連携)の新標準

複数企業	当荷主3社・物流会社1社の他、製品製造委託先、実運送会社、中継・加須市拠点の物流会社と多くの企業が参画
多拠点	伊賀市2、富士中継地1、相模原2、加須市2拠点を連結
中継・連携	上記すべての企業・拠点をリレー方式&積載率最大化で連携

【効果】

◆CO₂削減量: 13.3t-CO₂/年(32.8%)削減

◆積載率: 13.7%向上(平均66.5%→75.6% ※重量比)

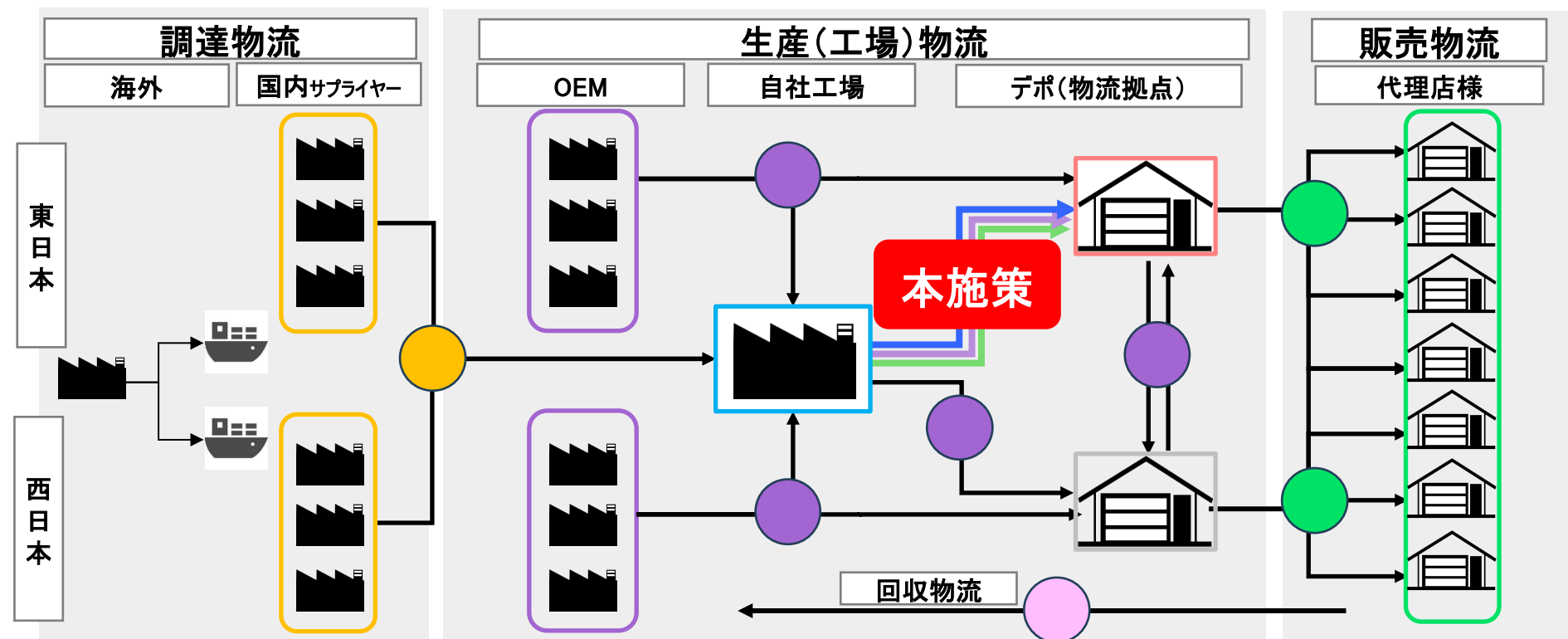
◆輸送効率: トラック102台/年(67.1%)削減
総合輸送距離15,428km/年(38.6%)削減

◆上記輸送効率化において18.4%コスト削減および1運行単価
19.2%改善。相互扶助並びにドライバーの雇用環境改善に寄与

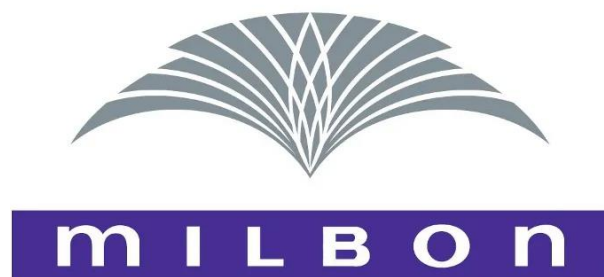
※ CO₂排出量は、「ロジスティクス分野におけるCO₂排出量算定方法 共同ガイドラインVer.3.2」参考、「燃費法(CO₂排出量計算シート)」より算出。週1運行試算

グリーン物流構築・発展のポイント

物流・ロジスティクスに携わる各荷主企業と物流企業のもつ、「人的・物的・情報的ネットワーク」をオープン・コネクト化することにより、環境負荷低減と効率化を同時に実現する持続可能な物流エコシステムの構築・発展が可能。
皆様のグリーン物流パートナーシップのご参考になりますことを切に願っております。



ご清聴ありがとうございました



HAL≡ON



東陽倉庫



みんなで地球にやさしい物流を

Green Partnership

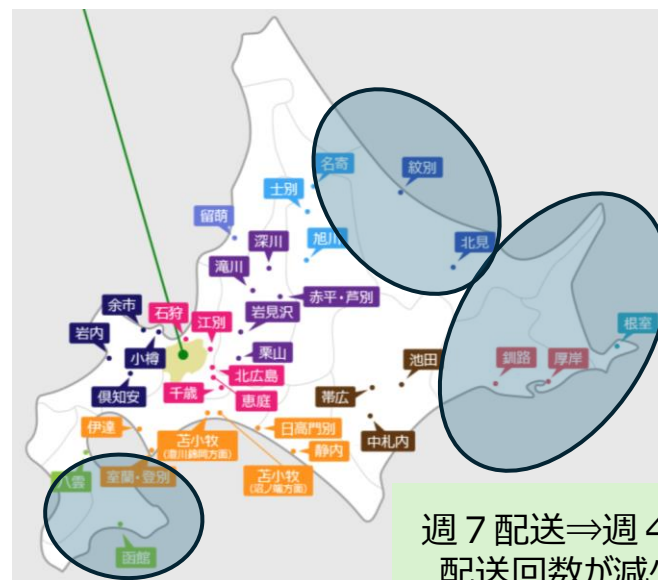
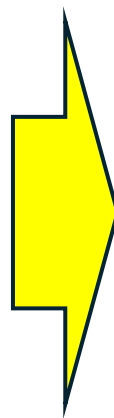
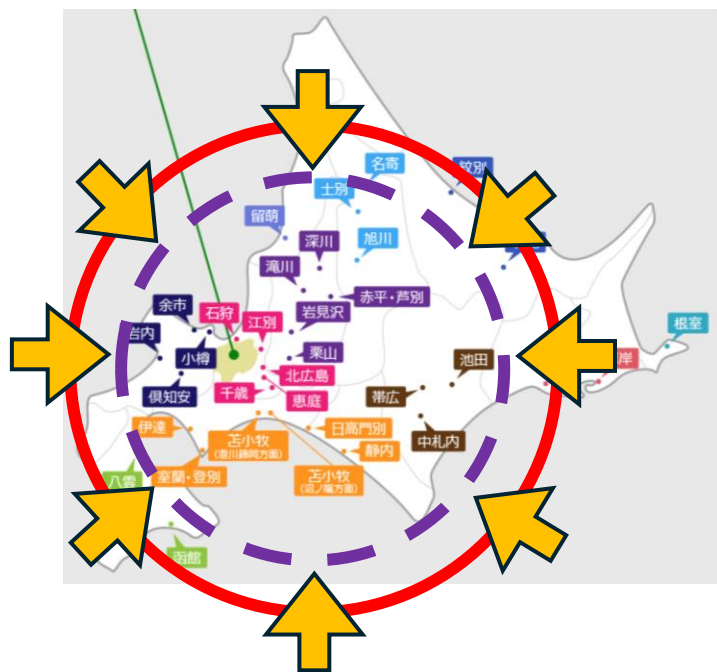
令和7年度 グリーン物流パートナーシップ会議
物流パートナーシップ優良事業者表彰

強靱・持続可能表彰
イオン北海道株式会社

RORO船を活用したモーダルシフトによる 持続可能な地方店舗配送の実現

**2025年12月23日
イオン北海道株式会社
石田 将**

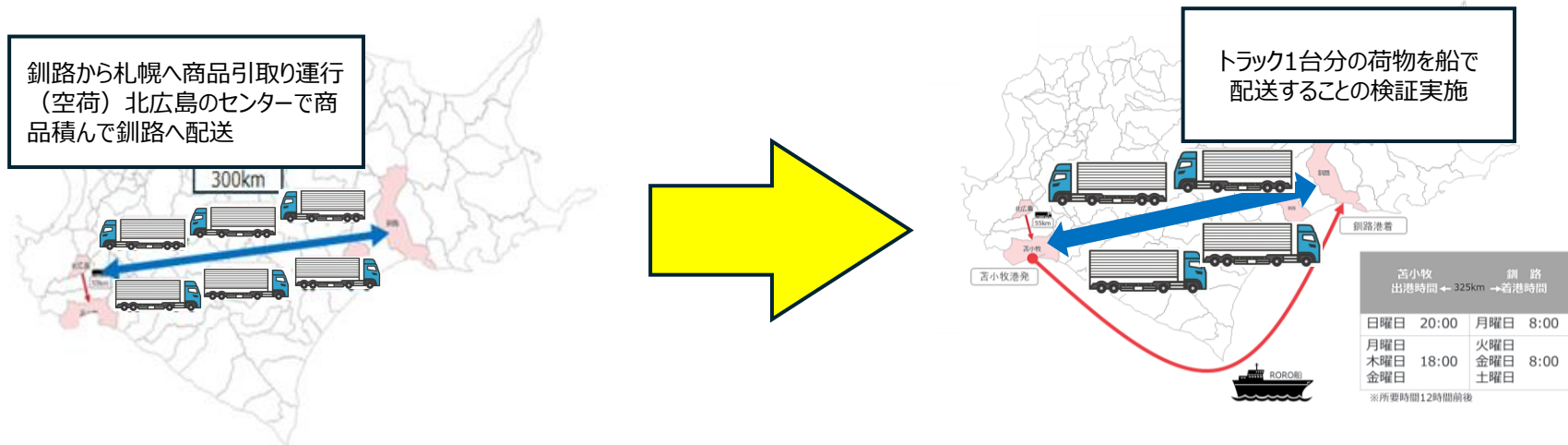
労働時間減少・ドライバー高齢化による配送困難エリアの拡大



週 7 配送⇒週 4 配送に
配送回数が減少試算

ドライバー成り手不足、高齢化等によるドライバー減少試算は約34%
労働時間減少による配送距離影響は約10%（片道300km⇒250km）
長距離配送を強いられる遠隔地ほど、配送困難エリアが拡大していくと推測され、
遠隔地への配送力確保が急務

モーダルシフト（RORO船）による店舗配送の実験検証



モーダルシフト（海上輸送）の流れ

RORO船配送 (5/24店着パターン)

～住居余暇・ヘルス&ビューティーケア、衣料～



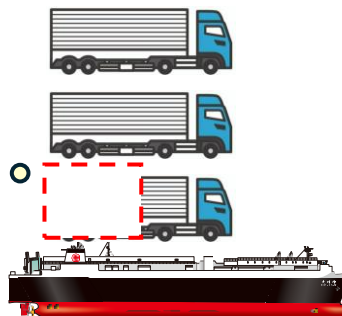
【効果】運行距離削減によるCO2排出量削減

CO2排出量 299.6t



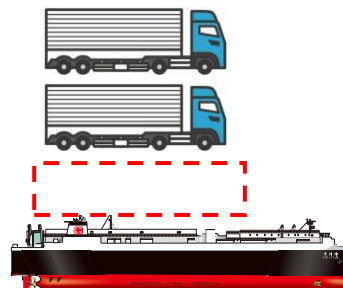
イオン釧路店実施

CO2排出量 255.5t
CO2削減率 15%



イオン釧路昭和店実施

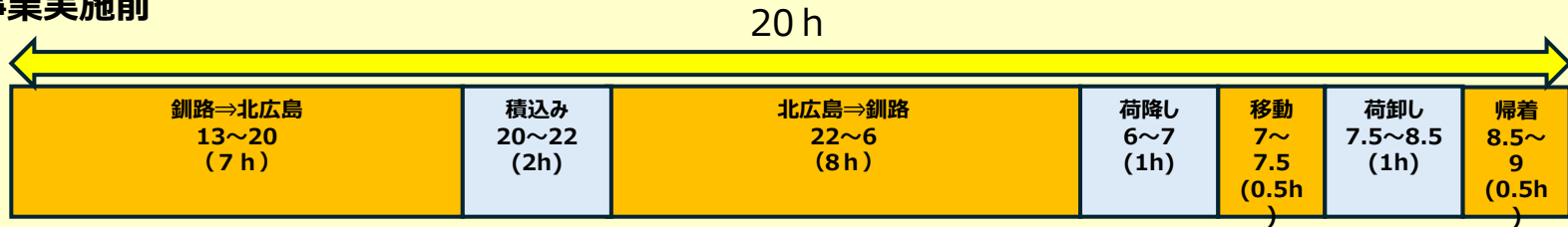
CO2排出量 226.5t
CO2削減率 24%



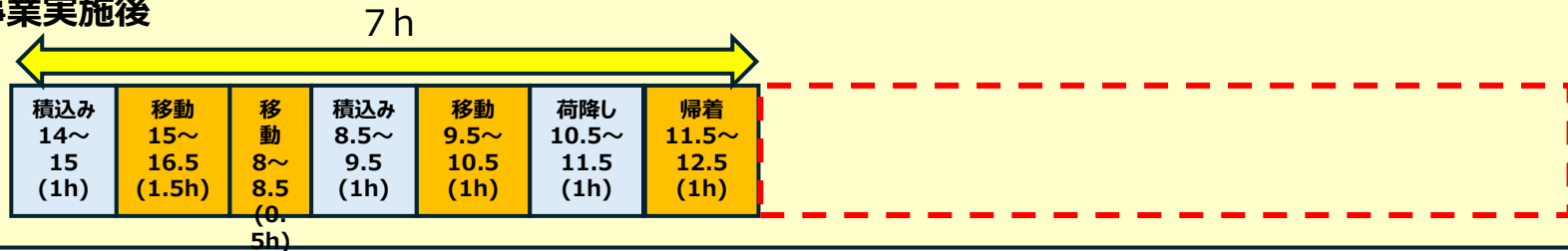
車両換算で10t×1車両削減換算

【効果】モーダルシフトによる運行時間削減

事業実施前



事業実施後



RORO船運行曜日

月・火・木・土の週4回配送

17日/月間の運行

(それ以外はトラックのみ運行)

それを加味して時間効率計算しても・・・

時間効率実績

20時間－7時間＝13時間/1運行（深夜時間△7時間）

13時間×17運行/台＝**221時間/運行の削減**

事業実施前の運行時間 月間600時間から

約36%労働力削減効果

2030年34%の労働力不足試算をカバーできる試算

総合効率化計画（モーダルシフト）認定

6 新 食 第 1116 号
20240724 北海道第3号
北 交 関 第 4 9 号
令 和 6 年 9 月 2 日

総合効率化計画認定通知書

（代表申請者）
栗林商船株式会社
代表取締役 栗林 宏吉 殿

令和6年9月26日
北海道運輸局環境・物流課

（共同申請者）
イオン北海道株式会社
代表取締役 青柳 英樹 殿
イオングローバルSCM株式会社
代表取締役 手塚 大輔 殿
センコー株式会社
代表取締役 杉本 健司 殿
北海道センコー株式会社
代表取締役 朝倉 学 殿

農 林 水 産 大

北 海 道 経 済 産 業 局

北 海 道 運 輸 局

令和6年6月19日付けで申請のあった総合効率化及び効率化の促進に関する法律第4条第4項で、通知します。

総合効率化計画（モーダルシフト）を認定しました

北海道運輸局では、栗林商船株式会社、イオン北海道株式会社、イオングローバルSCM株式会社、センコー株式会社、北海道センコー株式会社から申請のあった船舶輸送へのモーダルシフトに関する総合効率計画について、農林水産省及び北海道経済産業局と共同で認定しました。

■計画概要

北広島市の配送センターから納品先である釧路市までのトラック輸送を、苫小牧港～釧路港航路を利用した輸送を取り入れ、物流の効率化を図る。

【実施前】
北広島にある道央配送センターから釧路市内6店舗に10トントラックによる陸上輸送。

【実施後】
北広島にある道央配送センターから苫小牧港までトレーラーにて輸送し、苫小牧港から釧路港までをRORO船で運搬後、釧路港から釧路集積センターへトレーラーで輸送。釧路集積センターで10トントラックに積み替え、釧路市内6店舗に輸送。

■計画による効果

【ドライバー運転時間】 年間 82.9%削減

【CO2排出量】 年間 55.0%削減

■実施主体

・栗林商船株式会社
・イオン北海道株式会社
・イオングローバルSCM株式会社、
・センコー株式会社
・北海道センコー株式会社

日用雑貨等の船舶モーダルシフト

国土交通省

令和6年9月2日認定

実施主体

栗林商船(株)、イオン北海道(株)
イオングローバルSCM(株)
センコー(株)、北海道センコー(株)

事業内容

北広島市の配送センターから納品先である釧路市までのトラック輸送を、苫小牧港～釧路港航路を利用した輸送を取り入れ、物流の効率化を図る。

実施前



実施後



特徴

- 北海道内における船舶モーダルシフト
- ドライバー運転時間の省力化

効果

- CO2排出量：年間約55%削減
- ドライバー運転時間：年間約82.9%削減

北海道運輸局、農林水産省、北海道経済産業局による共同認可を受けた事業として計画遂行に向け、継続・拡大中

モーダルシフト実績と効果まとめ

項 目	実 績	算出効果
運行時間削減 (ドライバー削減効果)	トラックのみ 7,200時間/年間 ↓ モーダルシフト実施 4,548時間/年間	削減時間 2,652時間/年間 削減率 約36%
CO2排出量	トラックのみ 299.6トン/年間 ↓ モーダルシフト実施① 255.5トン/年間 ↓ モーダルシフト実施② 226.5トン/年間	削減率 モーダルシフト実施① 15% モーダルシフト実施② 24%

本事業を行う上で困難だった点及び普及させるポイント

● 困難だった点

- 『荷主』 RORO船を活用することで船で配送した商品の店着時間が従来の店着時間より3時間程度遅くなる為、店舗の働き方の変更や船で配送する商品群の選定や徹底、店舗によって人員配置が異なる働き方の統一化を図りました
トラック便と船便の店着時間間隔の調整（店舗作業が無駄なくできるよう調整）
物流センターでのRORO船へ乗船させるための作業の安定化対応を図りました
- 『物流業務委託先』 釧路西港から配送協力会社によるシャーシー引取り、配送車両への積み替え、店舗配送といった店着指定時間との作業時間調整を行いました

● 本事業を普及させるポイント

- ① 発想の常識を外す
⇒RORO船についてはどの地域でもできる運用ではありませんが、従来モーダルシフトを店舗配送ツールとするという発想はありませんでした。今回、発想の常識を外して考えたことで実証・本稼働ができました
従来の「業界の物流常識」を外して考えることが重要と思います
- ② まずやってみる精神
⇒失敗したらやめればいいというある意味楽観的な考えでまずやってみることが重要と思います



令和7年度 グリーン物流パートナーシップ会議
物流パートナーシップ優良事業者表彰

グリーン物流パートナーシップ会議特別賞
パナソニックアーキスケルトンデザイン株式会社



事業者

パナソニック・キスケルデザイン株式会社、パナソニック住宅設備株式会社、パナソニック・パレシオ・ビルメンテナンス株式会社、日本通運株式会社、日本貨物鉄道株式会社

事業概要

パナソニックグループでは、積載率の向上、出荷計画の見直し、車両の適正化など、様々な視点からの物流革新を進めるとともに、『Panasonic GREEN IMPACT』を掲げて環境負荷低減に取り組んでいることから、長尺品であるテクノビームの輸送において、環境負荷低減も同時に行えるモーダルシフトを実施した

概要図

【実施前】

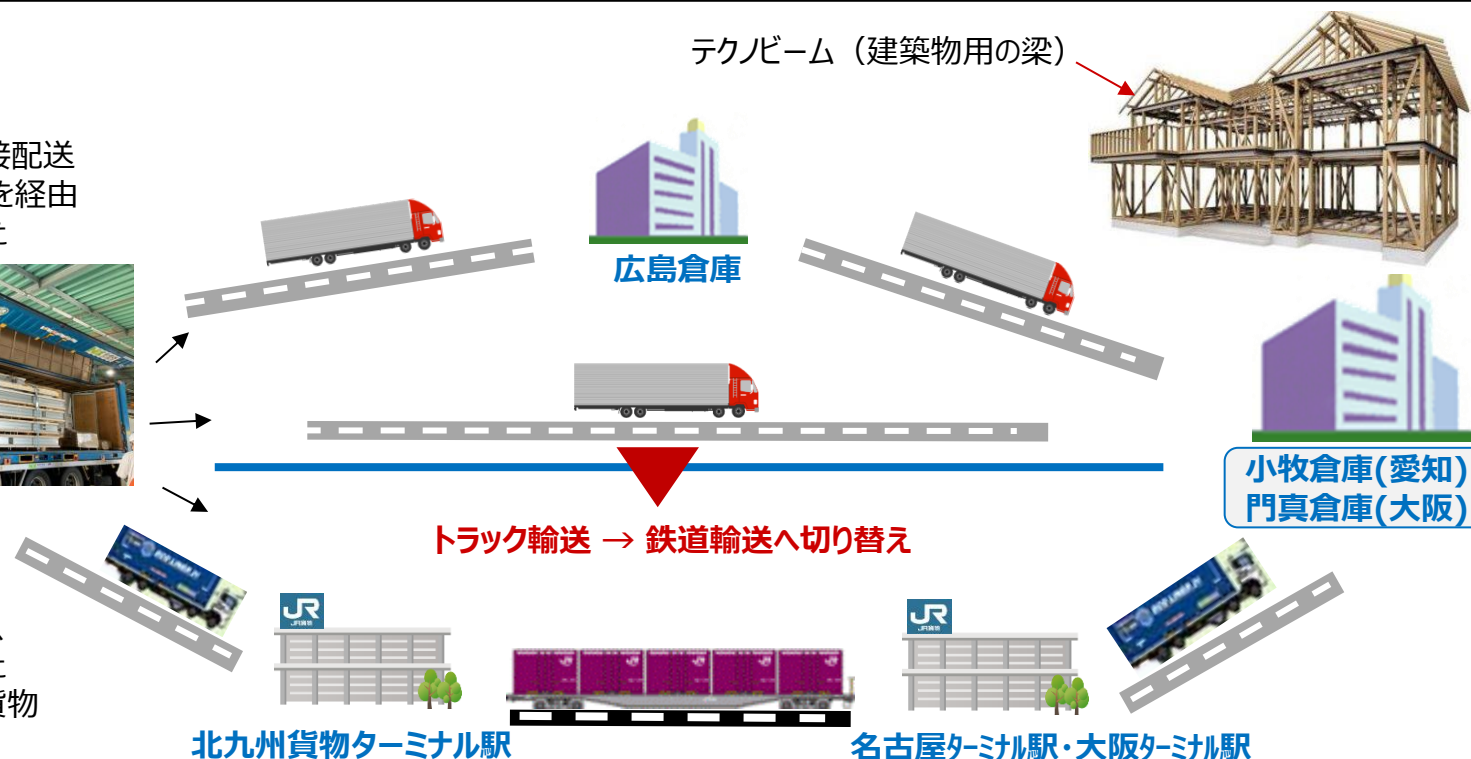
北九州工場から配送拠点に全量、直接配送拠点までトラック輸送若しくは、広島倉庫を経由して配送拠点までトラック輸送を行っていた



出発地

【実施後】

貨物鉄道に合わせた生産計画をたてて、北九州工場から空コンテナで回送していた31ftコンテナを活用して、配送拠点まで貨物鉄道輸送を行った



特徴

- ◆ 鉄道輸送のリードタイムをもとに、生産計画を変更し遅延等に対応できる体制整備
- ◆ 中継拠点を通らず配送拠点まで直接輸送を行うことによる物流効率化
- ◆ テクノビーム専用の角当てを導入し、高所作業の廃止及び、鉄道用の固縛を実施
- ◆ テクノビームの積込のマニュアル化により、どのドライバーでも集貨できる体制構築
- ◆ 空で回送していた31ftコンテナを積極的に活用

効果

- ◆ CO₂削減量: ▲286t-CO₂/年 (▲86%)
- ◆ トラックでの輸送距離削減: ▲153,455km/年 (▲94.9%削減)
- ◆ トラックドライバーの労働時間削減: ▲2,638時間/年 (▲90.3%削減)
- ◆ 空回送31ftコンテナ活用 260 コンテナ/年